

(様式2)

授業科目 成人言語障害学演習Ⅰ

科目コード番号

【担当教員名】 渋谷直樹	対象学年	2	対象学科	言語
	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	15
【概要】 成人言語障害学Ⅰで学んだ言語・コミュニケーション障害（失語、および右半球損傷、痴呆、頭部外傷などによるコミュニケーション障害）の評価・診断に必要な技法（面接法、検査法、家族を含めた指導法など）を実技演習する。また、評価報告書を作成し、関連職種との連携のとり方について学ぶ。				

【使用図書】

教科書・参考書等	書名等	著者名	発行所	発行年・価格・その他
教科書	脳卒中後のコミュニケーション障害	竹内愛子、河内十郎編著	協同医書出版社	1995年、5600円 ISBN：4-7639-3009-5
参考書	言語治療マニュアル	福迫陽子他編	医歯薬出版	1984年、9600円 ISBN：4-263-21095-6
その他 (プリント等)	適宜配布する			

【評価方法】

出席状況・授業態度（質問・意見・レポートなど）に50点、期末試験に50点を配点し、100点満点で評価する。

【履修上の留意点】

履修者を2グループに等分する。第1週は合同で講義し、第2, 4, 6週は第1グループのみを2, 3限連続で開講し、第3, 5, 7週は第2グループのみを2, 3限連続で開講する。

【本科目の一般教育目標: GIO (General Instructional Objective)】

成人脳損傷者の言語・コミュニケーション障害の種類と重症度を的確に評価し、障害者とその家族そしてリハビリテーションチームの専門家に情報を提供するために、面接法、検査法、指導法などを習得し、また評価結果を簡潔にまとめる能力を身につける。

【行動目標: SBO (Specific Behavioral Objectives)】

1. 言語評価に必要な医学的・社会的情報を収集する方法（面接法も含む）について説明できる。
2. 失語の主な検査法を列挙しその目的や特徴について説明できる。
3. 代表的検査法（標準失語症検査、知能検査、各種言語機能検査など）を習得し、一部分を模擬患者に対し実施できる。
4. 各種検査結果を集計し、総合的な報告書を作成する方法の要点を説明できる。
5. 障害者や家族に対し評価結果を説明し指導する方法の要点を説明できる。

授業計画

教室

回数	授業内容	SBO 番号	担当 教員	教授学習法	学習課題 又は 備考
1	演習Ⅰのオリエンテーション 評価のための基礎データ収集の方法	1	渋谷	講義	OHP, プリント
2, 3	代表的検査法の概要と実技演習(1) 標準失語症検査、WAB失語症検査など	2, 3	渋谷	講義 実技演習 宿題演習	検査器具
4, 5	代表的検査法の概要と実技演習(2) 上記(1)の継続、 掘り下げテストの実技演習	2, 3	渋谷	講義 実技演習 宿題演習	検査器具
6, 7	評価報告書の作成、家族等の指導法	4, 5	渋谷	講義 実技演習 宿題演習	検査器具、マニュアル、 プリント

その他